



3月30日 1988・No.70

東京都印刷工業組合京橋支部  
〒104 東京都中央区新富1-16-8  
日本印刷会館3F 電話 552-1855

編集 近藤正弥  
田島弘司  
柴田博司

氣韻生動  
骨法用筆  
庶物象形  
隨類賦彩  
經宮位室  
傳模移寫

南齊謝赫の畫六法

友親敬書

松原友規書Ⅱ画人である一方で書を愛しこの謝赫の他北宋の文人蘇軾(号東坡)の文墨を慕い、床の間に東坡の寒食二詩墨痕そのままの複製をかけた朝夕ながめていた。この謹書の筆勢にその一端があるかも知れない。

「謝赫」(しゃかく)の盈六法

### 退任のご挨拶

支部長 小山 英美

四月の通常総会をもって、一期二年の支部長を退任することになりました。

新村重晴東印工組理事長が、示された「業界発展向上のため、組合員の和と、協調・団結で、明るい組合運営」の指針に基いて、支部運営に努めて参りましたが、この二年間、支部長の責務の重さに対し、能力の限界を思い知らされ、自省自戒の連続でした。幸いにこの間、顧問、相談役、参与の皆様をはじめ、先輩、組合員の皆様の温かいご支援ご指導を戴きお蔭をもちまして、任期を終えることが出来ますことを衷心より御礼申し上げます。

特に支部運営にあたり、本部事業に対する取り組みをはじめ、諸事業・行事等の計画、準備から実務までを遂行された、副支部長はじめ地区長のその真摯な姿に接し、また各地区の幹事皆様の奉仕的な活動に支えられたことに深い感銘をうけました。心から敬意を表し重ねて深謝申し上げます。

これからの難かしい「新たな時代を生き抜く」ために、輝やかしい伝統をもつ京橋支部が、より一層の活性化が図られ、充実した運営がなされることに全幅の信頼と期待を寄せるものであります。

皆様のご健勝とご繁栄を祈念申し上げて退任の御礼のご挨拶といたします。



# 東印工組京橋支部新年臨時総会開催

63・1・22(金)  
於・中央会館

昭和63年度東印工組京橋支部新年臨時総会が1月22日(金)、中央会館にて午後6時から開かれました。大竹副支部長の司会により開会、まず佐藤副支部長が開会の辞を述べた後、小山支部長が別掲のように年頭の祝賀の後、支部行政についての説明が行われました。

続いて議事に移り、まず中山英男氏を議長に、近藤正弥氏を書記に選出し、次期役員推薦委員の選出について執行部一任という事で、小山支部長が顧問より2人、相談役より2人、現執行部から3人の計7名が次のように選出され拍手の内に承認されました。推薦委員

- ▽顧問Ⅱ石澤幸氏、斎藤喜徳氏
- ▽相談役Ⅱ小宮山敬之氏、石曾根啓悦氏
- ▽現執行部Ⅱ小山支部長、児玉副支部長、荒木地区長

議事はこれで終了し、中山議長、近藤書記の解任後、来賓挨拶に移り、中央区工団連宝田会長は祝辞をのべて、「今年は中央区工業文化展の開催の年だが、京橋支部の方々のリーダーシップなくしては成功に導かれない。新執行部により新しい企画が、決められる事になるが、一層の援助をお願いしたい。」と述べました。

続いて来賓の紹介が行われ、中央区、茂木商

工課長、東京都製本工組京橋支部、豊田支部長、中央厚生事業協組、牧野理事長が紹介された後田島副支部長が、閉会の挨拶で組織増強のため新加入組合員の紹介、加入をお願いしますと、述べて総会は予定どおり、6時40分に終了し、別室の新年懇親会へと移りました。

荒川副支部長の司会により、新年懇親会は、別室にて関連業界からも43名参加、合計150名以上の参加者で会場も狭いくらいでした。

まず小山支部長が、次のように賀詞を述べて挨拶をしました。

「平素は京橋支部に對しまして暖いご支援、ご指導を丁戴致しまして有難うございます。関連業の皆様方、新年何かとお忙しい中、わざわざ京橋支部のためにご出席を頂きまして、有難うございます。今日は懇親会でございますので、私共京橋支部に對しまして、また組合員企業に對しまして、忌憚のないお話しを関連業の皆様から賜り、また組合員の皆様も懇親の輪が広がるように、連帯の絆が深く結ばれるように今宵は意義のある懇親会にさせて頂きたいと思っております。関連の皆様方には今年も一年間、また、私共はお世話になります。どうぞ宜しくご支援、ご指導を戴けるようお願い申し上げます。有難

うございました」(拍手)。次に荒川副支部長が来場の関連業の社名を読み上げた後、関連業を代表して、能登プロセス(株)社長、澤田博保氏が次のように挨拶されました。「只今ご紹介にあずかりました沢田です。東印工組京橋支部の皆さん明けましておめでとうございます。平素は、いろんな機会毎に私は欠席ばかりしておりまして、たまたま手が空きましたので出席の通知を出しましたら、小山支部長からすかさず、いつもさぼっているからでしょうが、関連の代表として挨拶をとという事で逃げるわけにもいきませんので、先程、お読み頂いた立派な会社のためにも一言ご挨拶申し上げたいと思います。私から申し上げる事は大変おこがましい事ですが、昨年は前例のない地価の値上がり、円高、或は株の乱高下、直接、間接に私共の業界にもいろいろな経済要因として、波乱多かつた年でございます。しかし乍ら聞く所では、印刷界も非常に好業績で推移しているようでございまして、お蔭様で私共関連業関係も、どうにか引続いていっている次第です。さて、私が申上げる事ではないかも知れませんが、昨年末に印刷業界におかれましては第3構改が認可されていると思えます。一年半前、当時私も写真製版の第3次構改を担当致しました。振り返ってみますと今いわれております、経営戦略化等も、第1次構改の時に大体3、4年後には、政府がお見通しであった、政府のいうとおりに進化したと今もって経験した事があります。そして只今の経営戦略化、最初は経営セミナーから始まりましたが、

戦争用語から始る経営とは一体何であろうかと思いました。今私がいうまでもなく、印刷業、関連業共々、日増しに、厳しさが押し寄せまつて参りまして、大変忙しいございますが、このように押し上げられて、益々発展してゆくのではなからうかと思うわけでございます。昨年はこうして無事に過ぎましたが今年は内需拡大という政府のお声掛けもありまして、このままいけば、見通しはよろしいのではなからうかというように思っています。とりとめのないことを申しましたが、まずはご出席の皆様方の益々ご健勝で、また関連業の私共に対しまして、お力添えを賜りましてよい年であります事を祈念致しまして私の挨拶にかえさせて戴きます。ご静聴ありがとうございます」(拍手)

次に荒川副支部長が、地元選出の国会議員として活躍している鳩山邦夫議員の秘書である増子博樹氏を紹介して、次のように挨拶されました。「皆様、新年おめでとうございます。ご紹介を戴きました鳩山邦夫の秘書でございます。突然飛び込んで参りまして、挨拶の機会まで戴きまして、本当に有難うございます。せめて一言新年のご挨拶だけと思ひまして、お邪魔させて頂きました次第です。昨年は売上税の問題で大変皆様をお騒がせしました。またご心配をおかけしました。そのせいか今期は自民党の役職はなしという、いわゆるお仕置人事という事で一年間は我慢しなければならぬという事で、一時本人も落ち込んでいましたが、政治家になりました10年になります、初めて何か、地元の

皆様と一緒に仕事を出来たのではないかという事で、本人は意外とさばさばしております。以上ご報告をさせて頂き、京橋支部の益々のご発展と本日ご来席の皆様のご健勝をお祈り致しましてご挨拶とさせて頂きます。本当に、有難うございました」(拍手)。

最後に乾杯の音頭を前にして、本部でご活躍の東印工組副理事長、小宮山敬之氏が次のように挨拶をされました。

「大変盛大な京橋支部の新年宴会、本当に大勢の組合員の皆さんとそして関連の皆様方がご参加を頂いて、支部長以下執行部の皆さんも大変喜んでいきます。簡単にという事ですので、御礼を申し述べるため2、3分のご猶予をお許し下さい。今もご紹介がりましたが、私、支部の皆様方の推挙で、東印工組副理事長の役を仰せつかっておりますが、何といつても愚直です。仲々思うに任せないというのが現実でございますが、まあそれなりに一生けんめいという事で、支部長以下執行部の方、そして組合員の皆様方のお引立てを得て、大過なく仕事をさせて頂いている訳ですが、先程から支部長も申されておりましたので私から敢て申し上げる事もございませんが、ただお礼を申し上げて欲しいと支部長からも言われておりますのは、先月13日の東印工組独自の初めての新春の集いでございますが、皆様方には大変ご迷惑だったかなあと思うわけでございます。主旨は支部長が申されたとおりでございます。ただ折角大勢の方がお見えになられたにも拘わらず、大変私共がご



迷惑をおかけしたのは60名程度集まれば充分であらうと考えてましたので、まあ90名もこられて、手狭な会場になりましたので大変迷惑をおかけしました。来年は1,000名以上お集まり戴いても充分であらうと考えて既に予約をしてございますので、どうかよろしく願います。それと支部長が最後にお話ししましたけれども、新規組合員の加入増強をとお願ひですが、実は25名という数字は当支部の7名の理事長選出のぎりぎりの線で、40名で1名の理事というのが本部規約にあります、端数は15名で1名という事で、25名で理事7名となるわけです。もうこれ以上は引けないという事になりますのでこの辺もよろしく願ひします。私共もお蔭様で3月一杯で任期を終るという事で、皆様方には本当にご迷惑をかけたが有難うございました。それでは京橋支部の増々の発展と今日ご列席の方々のご多幸とご繁栄を祈念致しまして新年ですので、「お目出度う」と発声致します。皆さんお目出度うございます。有難うございました(拍手)。引き続き宴会の歓談に移り小一

時間、皆さんそれぞれに新年の喜びにひたって過ごしておりました。宴もたけなわの頃、中央区の矢田区長が駆けつけて、次のような祝辞を頂戴致しました。

「皆様明けましておめでとうございます。昨年は暖い御支援を賜りまして、心から感謝致しております。区長に就任以来、私は街造りに全力をあげている処でございます。中央区は都心なので、どうなってもよいのだという論議もあるようですが、私はそうは思いません。何と申しましても、この人間の息吹きが感じられなくなった街というには必ず滅びる時がある。それは歴史が証明する所でございます。そういう意味から、この中央区でもかつて17万人いた人口が30年間に、あっとい間に半分以下になってしまったようです。これは非常に悲しい事である、そういう認識に立つて私は今年を人口回



復元年と位置付けまして、今回中央区に人口回復対策本部というものを設けたわけです。これは全職員がきりつと引きしまつて各々地域の方々と心をつなげて、立派な中央区を造ろうという意気込みを示したものでございます。何と申ししても新しく入って来る人にもそうですが、今この中央区に住み、また中央区で商売している人に喜んで貰えるような、そういう街造りをしなければならぬ、そういう決意でございます。従いまして、中央区の印刷業、これは大切な地場産業です。我々のシンボルの一つなのです。この印刷関連産業を更に下支えするような施策、これを行政側でもって真剣に地域の方々、業界の方々と話し合い、そして素晴らしい施策を造り上げる、そういう気合いが必要なのではないかと認識しているわけです。皆様方と心をつなげて、手を携え、気合を込めて、文字通り東京中心区として、日本の顔として恥かしくない街を造り上げる決意でありますので、どうか本年もよろしく御指導の程お願ひ申し上げます。本日は支部総会おめでとうございます(拍手)。再び歓談に入り、午後8時過ぎに石澤幸顧問による中締め音頭があり、8時半に無事、お開きとなりました。(編集部)

### 新年臨時総会小山支部長あいさつ

新年おめでとうございます。

皆様ご健勝で新しい年をお迎えになりましたことをお慶び申し上げます。

昨年一年間支部運営に對しまして温いご支援とご指導をいただきましたことを執行部一同心から感謝申し上げます。

昨年は円高に明け円高に暮れた一年で、印刷業も厳しい環境の中で推移しました。この難しい新たな時代を生きぬくために策定された第三次構改革事業計画が、十二月二十五日通産大臣の認可がおりましたことはご同慶に存じます。

これから五年間この計画に基づき業界発展のための構改革事業がいよいよ始まります。皆様からご提出の調査書が事業計画の基礎になりますので、未提出の方は早急にご提出いただき、地域の特異性も考慮された、中小企業者のためのこの事業に全員参加されますよう重ねてお願いいたします。

支部事業、活動報告は四月に予定されております。定時総会で行います。当面の課題は新規組合員加入増強の問題であります。当支部では一昨年から組合員減少が目立ち昨年一月は二六七社で、現在二五五社となっております。この中には、江東区その他の地域に移転されている八社も含まれております。このような減少傾向は今後も続くと思われまます。輝かしい京橋支部の歴史と伝統を守り、支部の発展、活性化のためにも新規組合員の加入増強を推進しなければなりません。

新年早々お願い事で恐縮ですが、皆さんの地域、地区で、また係わりのある未加入企業がありましたら、是非ご勧誘ご紹介をいただきますようお願いいたします。組合組織強化は組合の

永遠のテーマであり、現在一番努力すべき重要な緊急課題であります。

現執行部は、四月をもって任期満了となりまますので、支部規約に従って議題の「次期役員推薦委員の選出」につきましてご審議をお願いいたします。それから東京都印刷工業組合本部も同じく役員改選期になっており役員は、役員推薦会議が選出推薦して、総代会で選任されます。この推薦会議の委員は、各支部の総代代表で構成されます。京橋支部三十一名の総代代表として私がその任に当りますことを特に総代の皆様のご諒解をお願いいたします。

次に本部行事について、一月十三日は東京プリンスホテルで、東印工組だけの新年会が催されました。皆様多数ご参加いただきありがとうございます。

## 「故・伊坂顧問を偲んで」

於・京橋支部室  
63・3・8 (火)

### 出席者

伊坂美術印刷(株)社長 伊坂元延氏

顧問 斎藤喜徳氏・石澤 幸氏

小山支部長・田島副支部長(編集委員)

小山 本日はお忙しいところを皆さんお集りいただきまして有難うございます。

伊坂顧問が1月4日に亡くなられて、26日に築地本願寺で社葬が盛大にされたわけですが、今日は改めて伊坂顧問に哀悼の意を表し、遺徳を偲びながら座談会をひらきたいと思ひます。

ございました。なお当日は東印工組としては始めての企画で、参加者が五、六百名と予想されていましたが、九百名に達する方々が一堂に会し、新春にふさわしい楽しい「新年のつどい」になりました。新村理事長さんも大勢のご参加に感謝されると同時に、会場が狭くご迷惑をおかけして申し訳無いと心配されていました。来年の新年会は、より充実した楽しいものとなる筈です。どうか来年もご出席いただき高価な賞品を是非京橋支部の皆さんがご持ち帰りいただくよう願望をこめてお願いいたします。執行部の任期も残り少なくなりました。皆様のご支援ご叱正をお願いいたします。今年一年皆様のご健勝と企業のご繁栄を祈念申し上げます。新年臨時総会のご挨拶といたします。(編集部)

まず葬儀や七七忌の法要をおえられて伊坂社長にはまだお気疲れのことと存じますが、冒頭に、組合なり京橋支部に對して何かお話しされることもあろうかと思ひますので一言お願いいたします。伊坂 ほんとに多くの方々に葬儀に来て戴き感謝致しております。誠に有難うございました。私が父から聞いていますのは、震災で1回戦災で2回も焼けましたが、それでもあの場所から絶対に他所へは行かないのだということで、ゼロからの出発でしたが、父は印刷がやれたのは自分にとって一番の幸せだったと思ひます



し、又最後の頃は社長室で倒れたいと常々言っていました。そういう訳で京橋支部や組合事業に対して非常に積極的だったという事は言えると思います。それは印刷というものを何とかしなければならぬという故人の信念があったのだらうと思っっているのですが、回りから見れば、父は話も下手だったし、大変頑固で迷惑だったかも知れません。

私が一番思った事は、付合った方々に非常にいやな思いをさせた事があつたらうと思うのです。父は故・新村さんに非常に可愛いがつて戴きましたけど、印刷界の中で高橋与作さんに対しては本当にお世話になったので、もう身を入れるように後半つき合いをしていました。私の媒酌をやつて戴いたのも高橋さんでした。

高橋さんが晩年病床にある時も、毎年おせち料理をデパートから送つたりして、非常に義理堅いところもあつたわけですね。

そのほかの方々に対しては、本当に父とよく

付合つて戴いたなあと思う方が多くいらつしやいます。どういうふうな形で私が表現するのがいいか、私が見ている父とあるいは違うかも知れませんが、いくらそうでも人間ですから、何処かで必ず出ているわけで、その意味では付合いつらい方だった筈なのですが、皆さんによくして頂きました。そして本人のいうとおり、一昨年12月21日に会長室で倒れたのです。動脈りゅうで危いというので、何とか正月も15日迄は持ちこたえて欲しいと妻と願つてまして、この時は何とか助かりましたが、それ以来ずっと入院生活になり約一年後に亡くなりました。

父に初めて会つた人は大学の教授だらうと言う方もいました。25年に米国に行った時父は英語で話すと言つたし、私がカバン持ちで父が英語で話すと向うは必ず普通は息子が通訳して親父が脇で応じるのに、お前のところは変つてると必ず言われましたが、親父は息子の世代は英語排斥の時期に中学生時代を過したので英語はできないのだとかばつてくれました。又思い出すのは新村さんと一緒にバンコックへ行つた時、半年ここにいろ、そうすれば英語がべらべらになると言われ、昭和39年ですから、私も本当は居たかつたのですが、結婚したてで、親父も反対するだらうと思つて帰りましたが、父は物事に対して非常に熱心でしたし、私と外国に行つても、部屋に入ると電話帳を繰つて全部面会予約をとり、ニューヨークでも、何処でも地下鉄とバスを利用して工場見学し、ホテルに帰つてくると私は疲れて眠むくなるのですが、



今日あつた事を全部克明に記入して、それも昭和25年からずっと一貫した帳面を使つて居るのです。その中には英語で書いてある事もありますから私に判らない箇所もあるのですが、非常に熱心でした。これだけは私、人間的にも尊敬しています。勿論出来ない面もありましたが、努力と印刷に関する熱心さ、これは一番尊敬する面の多い父でした。

こうして亡くなつてみて、葬儀の時お得意様に多勢来て戴きました。これは矢張り父の一貫した姿勢が皆様に評価して戴けたのか、1500人位

の内、半数以上の方々でした。それが又上の方たちが多かったので、そういう意味ではまあ偉かったのだなあと思っています。最後には充分財産を残してくれたという気持で、これは感謝致しております。私から申し上げることは、これだけです。皆さんには父のことで、大変ご協力頂いたり、お付合い頂いたことに心から重ねて感謝しております。今後共、至らない私ですがよろしく願います。忙しい中をこうして父のために座談会をもって下さって感謝しております。

**小山** 伊坂顧問は東印工組の理事長をはじめ、いろいろな役をやられまして、最後は本部、支部の顧問でした。私もいろいろご指導戴いたり、ご支援戴いたりしたわけですが、当然のことこういう企画をしなければいけないという時に期せずして、今度の話になりましたのでよかったです。思っております。

**伊坂** もう一言、お詫びしておかなければならないことで、支部の皆様に対して一番私が気になった事は、父が理事長をやってまして、井上計さんの選挙の時に大変ご迷惑をお掛けした事です。父も最後までそれを言っていました。私もはたから見ていて大変申し訳なかったと思っております。この事を一言申しておきます。

**小山** これは我々も配慮が足りなかったのではないかと気がします。その当時の政治や選挙に取組む考え方とか姿勢とかいったものも欠けていましたし、また対人的な面や組織的な人の一致協力といったものもどうかあったかなあと

いう気がします。これは後で思ったのですが、あまり気にされないようにして下さい。今後はこの事は是非忘れて欲しいと思います。

**伊坂** それで私は実は組合へ顔を出すのがいやだったのです。父もそうですが、私もそれで組合は絶対にやらないとその時はそう心に決めたのです。

**小山** まあ違った意味で私も選挙については、組合の皆様から言えば、微妙な立場ですから責任があるのではないかと悩んで、あれから私も組合にあまり積極的に出なかつたのですが同じ考えであると思います。

ただ伊坂さんにも申し訳ない事をしたんだなあという事が今だに気になっていきます。

**伊坂** いや、申訳ありません。ただ私はどうしても今日の話には出さなければいけませんし、一言それだけはお詫びをしたいと腹の中に思っていました事なので他意はありません。

**小山** やはり伊坂顧問についてのお話として私共の知らない過去の事を知るのが大切な事でしょう。温故知新の教えもあるように、伊坂さんの歩いてこられた人生や印刷の発展の事、また伊坂さんの人生を聞くことが印刷の歴史ではないかという感じがします。古い頃の話からしていただければと思います。先輩の方からどうぞお願いします。

**齋藤** それでは私から発言させて戴きます。私は伊坂さんにお世話になったのは、伊坂さんが支部長の時入船地区（6区）の幹事として初めて組合に出ました、昭和27年頃です。この時に

高橋興作さんが理事長だったのです。確かその翌年に今度は調整組合になりました、高橋さんが理事長でその次が伊藤集（千代田・集英堂）さん、伊坂さんが専務理事でした。私も若僧でしたが、諸先輩とともに十数名が調整組合の準備委員で、第1回の文化展が27年の7月か8月頃でした。

**石沢** 伊坂さんはすごい時に重要な部署にいたわけですね。

**齋藤** 41年に新村さんがおでになった時にも、それで地元からいつも一人のところを荻野さんが技術委員長で私も若僧だというのにもう一人ということ出されました。伊坂さんと荻野さんがこられて断る事も出来ず、私は商業印刷の委員長にさせられました。伊坂さんは調整組合が出来るので、すぐ支部長をやめられて、田島さんが支部長になり、28年に高橋さんが調整組合の理事長、伊坂さんが専務理事になられました。

**石沢** 私が伊坂さんに初めて会った時、威厳のある方で、なにか気難かしそうで近付き難いなあと思いました。一番最初に会った印象ですが、話が話してみるとどうしてどうして親切で話上手で印刷に対して情熱を持っておられまして、本当に感心しました。それが長い間積み重なってお世話になってきたのですがいい方でした。

**齋藤** 伊坂さんが米国の日曜学校へおいでになったのは何時頃でしたか。

**伊坂** 昭和25年です。

**齋藤** お帰りになった時に私たちはお話が聞き

たくて、欧文印刷研究会が復活いたしましたして、米国がどうなっているのか知りたくてよく聞きました。

あの頃は今のように入パスポートが出なかったので誰でも外国へ行けませんでした。

伊坂 パスポートは外務大臣が吉田茂、そしてマッカーサー元師が日本人である事を証明する必要があったのです。

齋藤 伊坂執行部の幹事として初めてお世話になりましたのは、確か29年で副支部長になりましたが、その時、40才になるか位で一才年がまだ若過ぎるから、ご遠慮しますと申し上げたところ、高橋興作さんがおっしゃるには「伊坂さんとも話合ったが、世の中で勉強させてくれる時には勉強させて貰った方がいい、出たいと言っても出られるものではない、先輩が出て来いと言ってる時は勉強のつもりで出ていった方がいい」と伊坂さんも言っているよ」と言われまして副支部長をさせて戴きました。ほんとにいろいろな会で伊坂さんは克明に記録をお取りになる、本当に仕事についての情熱というのですか、感心しました。又後年になって印刷のスライドを作る時に一度伊坂さんの会社内を写したり、凸版印刷の話をこしらえたりしましたが、やっぱり他社と違った合理的な事をおやりになっていました。そして、中小企業庁のモデル工場になられたのは確か29年頃でしたでしょう。

伊坂 ええ、今年でもう15回で、2年毎に更新しています。

齋藤 モデル工場には第一回は確か明石印刷さ

んと伊坂美術印刷さんがなりましたが、それからずっと続いてますが、中小企業庁から長くおやりになったという事で、何かありませんか。

伊坂 10年前に、70周年を兼ねて、初めて会社が主催してパーティを開きました。

小山 前の話に戻りますが、伊坂さんの渡米は丁度、伊坂さんが副支部長の時ですね、7月12日に行かれて帰って来られたのが10月初旬で、3カ月にもなり長かったですね。

伊坂 カナダでキリスト教の大会があつて、それが窓口で渡米の口実です。

小山 支部からは、シカゴで印刷展があるから見て来て下さいという要望を出したのでですね、この渡米中に38の印刷工場、印刷学校5校、そしてシカゴのプリント大展覽会をつぶさに見学されたという事がこの「京橋の50年史」にも書かれています。

石沢 それが第1回ですね、それが、中小印刷業者の最初の渡米でしょうね。

伊坂 そこに書いてあるかと思いますが、凸版の山田三郎太さんに随分、紹介状を書いて貰って行ったのです。

小山 それは伊坂さんから聞いた事があります。石沢 それで私感心するのは、今支部長もお話をしましたが、印刷工場、学校等そういう所を見学して来るのですからね、やっぱりバイタリティーがなければ出来ない事です、立派だと思いますね。

伊坂 私もついて行って兎に角、いやになったくらいですからね、帰ってからも皆からあれで

は大変だったですね、と言われました。

小山 これには米国の滞在時の1カ月間に見られたのが38印刷工場ですから、恐らく一日に、2〜3カ所回られた事があると思います。ですから昨年の我々の見学会やドルツパ展の事を考えますと全く恥かしい思いにかられます。

石沢 それから齋藤さん、2、3回欧米を廻った時がありましたね、あれは何年でしたかね。

齋藤 あれは42年でしたね、ドルツパ展です。伊坂 42年は組合で団体を組んで飛行機はエアフランスを1機貸切りで行きました。

齋藤 伊坂さんはその団長として行かれ帰国後、治作でその時のお話を伺ったのです。私は33年に伊坂さんがドルツパに行かれた時に羽田で、まだ珍しい頃なので羽国の出発の様子をリンホフの大型で撮ったりしたのを憶えています。

伊坂 その33年の時は伊坂個人で行った時です。齋藤 42年の時は、皆さんもう大勢で、千葉大の川俣先生もおいでになったのです。

伊坂 その時に向うで新村さんや伊藤集さんに会ったのですかね、父はよくその時の話をしてました。三人であっちこっち行ったようです。

石沢 帰国して伊坂さんのお話を聞く会があつて行った事がありますが、その時私が憶えているのは、欧州の経営者の方針とか意見を話してくれまして、向うの経営者は各々が利益を如何にしてあげるかが競争で、シェアー拡大の競争ではない、だから堅実経営なんだという事を聞きました。そしてあと一つは印刷業の職業に対して誇りを持っていること、これが私にはこた



えましたね。我々印刷屋は地位が低かったので、やはり誇りを持たなければ駄目なのかなとつくづく思いましたよ。

斎藤 それで思い出しましたが、伊坂さんが、ホテルでエレベーターに乗った時、ボーイがお仕事は何をやっておられますかと聞くので、プリンターだと答えると、ああいい仕事をおやりですねと言われたという事を聞きました。そんな訳で外国から帰国しても、皆さんが聞けば、いろんないい話をして下さいますので、マーボタイプの話等よく伺ったものです。伊坂さん曰く、マーボタイプは駒さえ手に入れば大丈夫だから、機械等は高いし利用度のそんなない物を買っても合わない、あなたが工夫して自分でやればよいといわれ、今もそれと同じ方式で、輪っばだけ買って来てうちでやっています。

伊坂 父は欧米に行く時は、凸版や大日本の方々に紹介状を買いました。これを持っていく事によって向うの人々が非常に簡単に会って下さった、従って私も見たいという人々に、全部お見せします。でもその人が1年たつて来たら、もうこちらは違った事をやっている自信はあると常々言っていました。

石沢 そうですか、実に偉いものですね。

小山 この「京橋の50年史」にも25年に行かれた報告会が10月24日、木挽町の万安楼で行われ「持ち帰った大ポスターを壁面に張り廻らして机上には多数の印刷見本を並べて出席者の観覧に供した」とあり、その折にこれを契機に、皆さんが外国に目を向けてどんどん行くように

なつて新しい印刷機械を導入しだして、技術革新の素因を作つたというように書いてあります。石沢 その時の話について、一寸思い当るのは最近貿易摩擦が起きてますが、当時の伊坂さんの話を思う時、経営者の姿勢で大きな影響があるのではないかと思います。向うは利潤の追求、日本のやり方は占有率を大きくして、それで競争しようという訳で、利益は少くてもいいと、だから両者を考えると、摩擦はやつぱり経営者の考え方の差違がこのような問題を起すのではないのかなあと思うのです。

ほんとうに伊坂さんは良い基本の事を学んで来てくれたなあ、やはり日本の経営者にこれが判つて貰えたら今の貿易摩擦も解消するのではなからうかと思う次第です。

斎藤 それから学校に関してですが、日本印刷協同研究協会が発展充実にして日本印刷技術協会になった時に新村さんが会長で、伊坂さんが副会長、塚田さんが専務理事という形でおやりになつて、その方面の技術に関しては伊坂さんも本当に大事に考えておられました。

伊坂 ええ学校という事を盛んに言っていました。ですから、外国の印刷学校は必ず廻るのです。

斎藤 5・6年前ですか、京青会の研修で山本隆太郎さんを講師に勉強会をやりました。組合員も参加して開いたので伊坂さんも社員の方を2・3人つれて最前列で熱心にノートをとられているのには感心しました。私もその時メモをとりましたが何時の間にかどこかにしまい込んでだめです。

伊坂 父は講習会があると出掛るので私があまり行くと講師が迷惑するので出ない方がいいと言つと、若い講師の話を聞いて勉強するのが何故悪いのかと言つて聞き入れませんでした。

斎藤 伊坂さんは記憶力の素晴らしい方でドルッパに行つた時にパスコを1つおみやげに戴いたのです。それは珍らしくして中に小さなボールペンが入るのです。永い間使っている内に失つちやつたのですが、失くする前に伊坂さんがそれ昔のボールペンの入るやつかとおつしやるので、そうですといつたらまだ使つてたのかと笑つてましたが、戴いてから26年もたつので皮がいたんでも使つてますと言つてから確か3年前だかに又戴いたのです。そんな訳で非常に記憶がよいのが印象に残りました。もう一つは印象に強く残りましたのは、何年頃だったか忘れましたが、銀座祭りで日曜日でしたが、私は写真を撮らうと数寄屋橋のソニービルの角まで行くと、伊坂さんが奥さんと仲良く御覧になつてまして、奥さんに優しいのだなあと思つて私も良い事は真似しようと思つて、東京にいても長いこと思っている私の母を手押車に乗せて歩行者天国を見せに行つた事もあります。

石沢 今講師の話が出ましたが、伊坂さんが講師で経営者合理化教室というのが開かれたのですよ、伊坂さんが売上げ倍増は如何に行うが、経営合理化はどうしてやるのかと講演して質問にもてきばきとお答えになつて、結局、企業というのは永続性にある。やはり目標を定めて毎年伸びて行かねばならないのだと、それと

同時に合理化をして行かなければ永続と繁栄はないのだと述べて、学究的な面があつて驚くと共に感心しました。その時齋藤さんも講師として中小企業向上の合理化、それから活版印刷の前準備を話されたのです。荻野さんが荻野式計算尺について議義され、この3人は京橋支部の名トリオで、役者も揃つてあの昭和45年前後の時代は業者にとつても、京橋支部にとつても充実してましたね。

田島 そういえばあの計算尺はどうしましたかね、最近話題にものぼらなくなりましたが。齋藤 よく地方へ行くと荻野式の計算尺で間違えたという人がいたり、大阪にも説明に来てくれと言うので、荻野さんに私もついて行った事もあります。伊坂さんは如何なる事でも理論が先行で、本当に学究的で何処へ行つても皆さんの評判はよかったです。それと短気な所があるとおっしゃいましたが、これは私がお付合した限りでは、そんな感じはしませんでした。

伊坂 いや我慢してたのです。周りに意識があつてそうしてたのです。私が妻から聞いたのでは、何度か酒のんで口論して、おふくろが後で、菓子折を持って歩いたとかで、なかなかケンカ早かつたようです。そんな事でもお話しにならないと、いい事だけはいけません。

(笑)

齋藤 いや、やっぱり伊坂さんは江戸っ子でした。ですから腹の中に入れちゃうというより、喜怒哀楽ははつきりお出しになる方でした。地方に構改の説明に行つた時も誠実でおとなしく、

大阪でも終つてから若い人から企業整備と同じ事をやるのじやないかとか、マツチ業界は300軒あるけど30軒にしてしまうというのがどうなのだと質問されましたが、ここで嘘をつくともう来られませんかと言いました。伊坂さんが私に二人で説明するから細かい所をお前がやれと言われて、壇上に立つたものの、人の顔がよく判らなかつたですね、終り頃落着いて左をみたら井上さんや北田さんがおられて帰つてからひやかされました。伊坂さんの時はいいけど齋藤さんは若いから心配で聞きに来たけどよかつたよと言われました。でもあの時は上つてここでとちつたらえらい事だと思ひました。でも行きの車中でも何も心配する事はないからと伊坂さんに力を付けて戴いて説明に行きました。伊坂さんは構改にしても、向うでみてきた物を取入れてすぐおやりになりました。数年前にもNHKの人を伊坂さんの組版作業場へ連れて行つたのですが、ゲラ棚が低いのですね、それでゲラをのつけたまま校正が出来るようになっていて、おろしたりして版を壊さないようにしてましたが、「実をいうと外国の真似なんだよ、いい事はどんどん取入れなくてはいいけない、折角向うへ行つて見ても結構でしたでは進歩がない」と言つてました。

小山 伊坂さんについては先程からいろいろと話されましたが、学究肌で、勉強家で、真理を追求する方ですね、間違ひは間違ひと素直に言われるし、これは明治生れの一徹な江戸っ子の気性が非常に情熱を燃す核になっていたのでは

ないかと思ひます。私が始めてお会いした時は本当に立派な人格者だというイメージでした。伊坂 外で知らない人に会うと、お父さんは大学の教授ですかとよく言われました。

小山 私もそう感じましたが、その上に愛妻家で、立派だったのは自分の持帰つた物は皆さんに分かち与える事でした。新川地区でも必ず、外国から帰国後、資料を出されて皆に見に来てくれという事で、大分勉強になりました。

それを見て私はああドルツパというものがあるのかと、そこへ行かねばいかんという事で、40年に行かせて貰つたのです。それから区内の小学校の生徒の工場見学も私が地区長の時にさせて貰ひました。

それだけでなく見学した生徒の見学の感想文やお礼の綴り方を本人の字体のまま印刷して本にして学校へ配るといふ、きめの細かい、生徒のよい思い出になる事をされる等、印刷界にとつても、子供と印刷のふれ合うという面でも私は感銘をうけました。

伊坂 42年に組合の団長でドルツパに行つた時バス4・5台で田舎のコベントリーを廻つた時にバスの中で、男ばかりだし、ずうっと回つているといういろトラブルが起きますが、大阪の人か何か言つたのですよ、すると父は「何言つてやがんだい、だからおれは関西の人はきらいだ」と言つたのです。

私はどうなるかと思ひひやひやしました。あれだけの年になつても、周りを見ないで関西の人を初め全国の人が集つているのに、しかも関

西にも仲の良い人も多くいるのにあんな事を言  
いましてね、そういう事が多かったのではと思  
います。

齋藤 本当にそういう点は直情でしたよ、腹に  
ある事は隠して横を向いたりするのではなく、  
ほんとに一気に自分で意志を現す、あれは却っ  
ていいと思いましたね。

伊坂 外で見たらどうか知りません。家の中  
はしょっちゅうでしたので、長い間、皆さん違  
う人ばかりいたら絶対にあつた筈なんだし、皆  
さんご存知でも誰もそんな事はおっしゃって戴  
けないだろうと思います。それが心配でした。  
齋藤 いや、外へ出ると立派な人格者でした。

関西へ行っても皆さんそう言っていましたよ。安  
心して付合えると定評でした。

石沢 42年のドルツパという伊坂さんが副理  
事長になった時ですね。その時私は京橋支部長  
をやっていたのですが、組合本部でその時料金  
適正化運動を大々的にやりました。

齋藤さんと私がその委員で、伊坂さんが委員  
長となつて自ら料金適正化運動に対して熱心に  
図を作つてまして原価計算はこういう具合に計  
算して、料金を決定するのだと詳細に説明して  
自ら先頭に立つて自らやられたのです。

田島 あの方は原価計算というと非常に自信を  
持つておられたですね。

小山 数字に強かったですね。

石沢 適正化運動で業界の原価計算については  
本当に業界の体質強化に大きな貢献を残しまし  
たね、その意味でも先生って感じてましたね。

齋藤 そうですよ、やはりその数字に強いとい  
うのが、伊坂さんの一番の強みでしたよ、ほん  
と委員長というより先生になったような感じで  
したのです。昨年、私事で恐縮ですが、叙勲の  
内示がありました時に、一番先に伊坂さんの所  
へご挨拶に行きましたが、大変喜んで戴きまし  
てその時にもいろいろお話しして、仕事の事はも  
う若い者に任せなければ駄目だといわれました。

あの時はまだしつかりされてました。  
伊坂 でも、齋藤さんの祝賀会の時はもう少し。  
齋藤 いや僅か2、3カ月後だったですが、い  
やもうそんなに体調が悪かつたのに、ご迷惑を  
お掛けしたなあと思ひました。……

伊坂さんには大変お世話になりましたが、お  
得意さんも大事になさいましたね、いい教訓で  
す。私等は申訳ないのですが、もういいや変る  
のだからとか、時々お粗末にするような事もな  
きにしてもあらずでしたが、伊坂さんはお客を大  
事にしました。それはもう私勉強しなければい  
けません。今後、せがれ等にも私のカラーでい  
くと、失敗するのでよく伝えていきたいと思ひ  
ます。

小山 伊坂さんは印刷人の鑑みといひますか、  
お客様も大事にされますが、私達後輩にも例え  
ば印刷の技術とか資料、それらをお見せになる  
時に偉ぶつた所がないのです。どうぞ、こうだ  
よと言つて親切に教えていただきましたね。あ  
あいつた所は我々一番、感銘を受けました。

齋藤 まあ伊坂さんの人柄ですよ、お話する時  
はもうお友達と話すのではないのだからと判つ

ているのですが、つい引き込まれて話に夢中  
なるのですが、組合の本部へ行つても、荻野さ  
ん、伊坂さんと3人で一緒に外へ出た事もよく  
あります。

伊坂 そういう時は案内新しい所へ連れて行っ  
てくれたでしょう。

齋藤 荻野さんも昔話に若い時の事を話しま  
すよ、私等の付き合いになつてからはもうだめ  
すよ、もうすつかり聖人になつちやつたから  
(笑)。いい所へは案内してくれませんでした  
が、でもお蔭様で方々連れて行つて戴いて有難  
かつたです。

石沢 伊坂さんは晩酌どうでしたか。

伊坂 ええ毎晩やりました。2、3年前迄は  
一合やりました。やつぱり足が弱つて来まし  
たので、家内と内緒で水を入れていたのですが  
判つても黙つて飲んでました。酒好きなら、  
大体水を混ぜれば判りますね、昔は私と各2本  
飲んでもう一本どうだといつてましたが、私の  
うちは親父が飲んでる間は家族は待つていて  
お惣菜はつまみですが、酒が済んでから御飯に  
するといふわけで、それが長いのです、私は一  
緒に飲むのでいいのですが。……

石沢 お酒はお好きでしたね。

齋藤 私や荻野さんは飲めないのが駄目です。

石沢 それで飲めない二人を前に、伊坂さんと  
飲みましたが、ある時伊坂さんが都々逸を唄つ  
たのです。そして荻野さんが磯節、齋藤さんが  
湖畔の宿を唄つたのです。あのね、私は飲んで  
いる時の事は憶えているんだよ(笑い)それで

ね、普段唄わない人が唄ったつてんで、その場が盛り上っちゃって、それで酒が沢山出て、荻野さんが御馳走を出してくれたのです。

小山 伊坂さんが都々逸をですか。

石沢 ええ。そして荻野さんが磯節、これが上手なんだよねえ。

斎藤 荻野さんの磯節は本格的です。

石沢 うん、それから斎藤さんの湖畔の宿も、それでそれまで3人が唄った事はないのですよ、どうい風吹き回しか、唄ったつてんで、盛り上っちゃって、無有会も楽しかったですね、何でもいから皆と会えるのはいい事だと。

斎藤 伊坂さんが理事長におなりになる時に、石沢さんと私が伊坂先輩に、ぐずぐずいうなら京橋は少し考えがあると、少し反旗を翻すような意見を出したら、その後、ずっとたつて「この前、お前あれをしてくれたんだつてねえ。」と言われて今でも憶えていますよ。

それからこの京橋の50年史が、荒川さんが支部長の時に発行されましたが、企画したのは荻野さんが支部長の時でした。

荻野さんは京橋から理事長を出すのだと、伊坂さんになつてもらい、その景気付けに地元で何かデモンストレーションをやるうという事で、皆さんと図つて、丁度50周年になるというので話合つてました。なか／＼決まりませんでした。が、東日本委員会が鳥羽でありまして、その車中で荻野さんが記念誌を出そうと、B5で200ページで大体75万円位あれば組合員に配れる、それをやりたいが支部長は予算でやっているので、

斎藤さんこれの応援を伊坂さんに頼んでくれなにかと言われまして、荻野さんが50年史を出したいけど予算がないというので何とかならないでしょうかと伊坂さんにお願ひすると、一寸考へてから結構でしようと言われて、牧さんの所へ行つて執筆を頼んだ後、伊坂さんの所へ行つて、原稿は牧さんが書いてくれますので用意出来まうというので、25万円も出してくれました。すぐやるにはお金が要るだろうとくれましたが、広告をとりご迷惑を掛けないでやる積りで、高橋さんの所へ行つて広告を入れて経費を補てんします。と言つたら、50年史に広告を入れる等もつての外だと怒られましてあの時は困りました。

これでは伊坂さんにおんぶにだつことなるのではと思いましたが、広告の代りに支部員の会社紹介を出す事で、お金を戴く、その代りに記念誌発行の祝賀会の会費は一切無料とする事になりました。本は各県工組の理事長、図書館、支部員へ配つて全部で100部でした。

荻野さんは伊坂さんが駄目だと言つたら、もう出来ない仕事だったので、何か機会があれば、記録に残していた方がよいと私に言われました。東急ホテルの祝賀会の時は各支部長、常任理事等全部呼んで京橋支部はこの位やるのだとデモンストレーションをやつたわけで、私にもいい記念になりました。

それで執筆した牧さんにくらか払う約束をしたのだと伊坂さん、荻野さんに聞かれまして、予算がないから25万円ですというので、これだけ

書かせて25万円では子供の小遣いではないかと言われましたが、牧さんは結構ですと言つてましたが、もしお金が余つたら伊坂さん少し考へて下さいというので荻野さんと相談して考へるとこういう話だったので。会場で牧さんに渡したようでした。

小山 荒川さんが支部長をされてた時荻野さんからの申し送り事項でしたが、金がないという事で支部は非常に心配でした。それでごたごたしましたが、私もこの量では少なくとも、200万円位お礼をしないといけないのではという議論があつたのを、憶えています。私はその時会計担当だったので、知つてますが……。

斎藤 ずっと後になつて牧さんは多額を戴きましてと礼をいつてましたが、牧さんによれば本にしてもらつた方が有難かつたと言つてました。

小山 さて50年史についてはこの位にしまして伊坂さんは業界に於ても支部に於ても大きな役割を果されたというように思います。本部の仕事もそうですが、その中で一番思い出すのは昭和45年の構造改善事業の重責をになつたという事が印象に残りますがその辺の話をお願ひします。

石沢 あの時は初めてなので大変だったですね。

斎藤 あの時は新村さんが復帰して、ほんとうに女房役として頼りにしたのは伊坂さんでした。伊坂さんは全国をお廻りになり、私も九州や方々へお伴しましたが、伊坂さんは随分ご苦労なさいましたよ。その甲斐あつて、新しい道を

求めて構改をやって今その通りになった。あの時上手に仕事の加減を切換えた人は今でもずっと順調ですが、荻野の人はすぐ乗換えがきかなくなりましたが、荻野さんのように活版の神様でも全部、平版に乗換えちゃったですからね。

組合の指導は矢張り、役員が苦勞して指導したとおりに従った人の方が今では成功なさっているという事で、悪くなかったと思います。特に京橋の場合は昔ですと高橋さん、伊坂さんは私等から言えば、校長先生と教頭先生みたいなものでしたからね。そして荻野さん、田嶋さん、花崎さん、石沢さんに私も入れていただき無年会というのが出来たんです。一ヶ月に一回ずつ集っているような話をしまして楽しかったですね。

伊坂 そのようですね。

斎藤 仕事よりも、よもやま話で、それ以前にあったのは常盤会で、高橋さん、伊坂さん、北川さん等が星の如く並んで、丁度今の長島さんのお父さん長島五郎さん等がおられました。皆さん私の親父と同年代なのでこれは私には口もきけなかったのですが、仕様がなかったので。私は伴です。で末席で初めから終りまで黙って話を聞くだけでしたよ。その後組合に入ってからには本当に伊坂さん他、皆さんに可愛がって戴いて、それと同時にもうほんとに打ちけてお話しさせていただいております。

石沢 伊坂さんは学者さんであり、本当の江戸っ子でした。もう自分の虫を殺すのに苦勞された方ですよ。伊坂さんは現実と将来を見て理論的に話をしてくれましたね。机上の論でなく、

自分の理論と経験してきた事、それから欧米を回って見てきた事で、こういう具合になるのではなかるうかという事で説明していましたから。そういう点は他の人になんか感覚と見識でした。

これは矢張り業界発展のため貴いと思うのですが、伊坂さんは肩を張らないですよ、ああいう人が印刷を考えてやってくれた人だなあと僕は感じますね、それと同時に伊坂さんは印刷が天職だったのでしようね。

斎藤 印刷が好きでしたね。

石沢 印刷で生きてその中で業界のために発展に尽し、そして天寿を全うしたのですからね。私は印刷の発祥の地京橋にほんとにふさわしい印刷人だと思っております。そういう点は京橋として誇りうる大人物だと思いますね。

斎藤 戦後兵隊から帰った頃、今の久栄社さんの辺りに焼けたビルがありまして、そこに伊坂さんがいました。

伊坂 それは鉄道省の仕事をやっていたのです。絶対に地方へ引越さないという事で、戦災で2回焼かれたと言いましたが、その頃八重洲からこちらは焼けて日本タイプライターのビルしかなかったのですが、鉄道省がどこでもいい、お前の好きな所を使つていいというので焼けた機械を持って来て、うちの近所の平野さんが電気工事をしてそこにいたので。

そして話聞いた所では永代橋のたもとに進駐軍が東京湾から単艇で来ては町へ兵隊が飲みに来るのです。そして酔っては船にのる前にそこに家があるので来るのです。そうするとうち

の女房と親せきの娘もいて、親父が二人共押入りに隠して英語で応待して追い返したのですが、あそこをご存知だったのですね。

斎藤 ええ知っています。永代橋の手前の所です。

小山 そうすると戦後は文字どおり裸で、永代橋のたもとのスタートだったのですね。健保の所は木造の二階建ての洋風の玄関でしたね、その記憶は多少あります。

斎藤 昔は支部長さんという雲の上の人だったのですよ。でも伊坂さんは我々のような者でも親身に可愛いがつてくれて、いろんなお話を聞かせて下さったりで、第一回欧文印刷研究会は何をやるのだというので、光文堂社長に出席戴いて、日本のは駄目だから外国の活字を取らせたいと、そして私もそれを買つてみたいと言つと、それを買つたらおれの所へ知らせるというので、持つて行つて見せたりした事もあります。

石沢 しかし何ですよ、伊坂さん、荻野さん、斎藤さんはほんとに名コンビですね、経営技術や他の面で業界の教育者でしたよ。

斎藤 いや私の母親が根つからの印刷屋でしたから母親には、伊坂さん、荻野さんによく勉強させて戴けと言われました。

小山 今の時代の我々はこれからも勉強しないといけませんね。

斎藤 組合は確かに暇かきの面がありますが、それに相当する程、プラスになり勉強になると思っています。若い人と交代するのはいいですが、

熱を入れてやって下さる人材はご迷惑でも、ぜひお願いしたいのですが、やはり皆の組合だから皆で出て来て努力しなければいけません。いつも言うのですが、京橋の伝統は残しておきたいと思えますね、私等でも高橋さんのおっしゃったとおりですよ、伊坂さん、荻野さんが来て引張り上げなければ、矢張り、地元で交代で幹事をやる位で何もわからず、世間も狭くならぬと思います。最近は一才地方へ行って知らない人ばかりになりましたが、二代目になって私の知っている人はそのお父さんと、皆知らない顔です。(笑)

それから伊坂さんが組合学校という連載記事を「京橋の印刷」に八回に亘って掲載されましたが、りっぱでしたね。

小山 これも読み返すと非常にためになるのじゃないかなあという感じがします。

伊坂さんは気質は典型的な明治人で、まあ一徹な所も、江戸ッ子の典型的な性格ですね。そして私共には非常に優しい面がありましたね、自宅迄電話を戴いて、自分の事のように心配して下さいました。

伊坂 ああそうですか。でももう一つ付け加えますと、非常にお節介屋でしたね、親切の言葉を通り越して、親切の押し売りだと私は言ったのですが、そんな事は本人はお構なしに一生懸命やっているので、親切もある程度を過ると、面倒臭くなってくるでしょ、そういう所がありました。本人は心配して面倒みているのです。例えば私が何処かへ行くとすると行きだけ書

いてくればよいのに帰ってくる時間迄書いてくるのです。(笑)それが年をとってきて嫌がらせでなく、非常に親切だったのです。

小山 業界は広いですし、いろいろ業態は違いますが、中にはねたみ等もあったり、人間関係とか色々微妙な点もありますから伊坂さんもご苦労されたのではないかと思います。

伊坂 父は若手を非常に大事にしましたが、家族にもそうでした。私は父のようにはできないからと女房に今から言ってますが、父はどこへ行っても泊らないで帰って来てしまう。熱海から帰って来るのはまだいい方なんです。一回は熱海へ行って帰ってから千葉に行って用を済ませて帰ってきた事がありました、あれが、仲々本当の友達が出来なかつた原因じゃないかと思うのです。やはり、そういう所へ行つたは泊って帰って来るよう何回も言ったのですが、いくら会社が大事でも、本当は母の体を心配してまして、体が弱いのでかわいそうだという気があつたのです。

斎藤 それは伊坂さんのお人柄ですね。

小山 我々もそういう愛妻家だなあという印象を持つていました。

斎藤 奥さんを大事になさるところは確かにそうです。

伊坂 それで他に趣味がないので、他の人と共通の話題がないのですよ。たまたま、新村さんはああして父を可愛がって戴いて、何かにつけて、父を立てて戴いて呼出したりされてたので、そういう意味で高橋さんもそうですが、非常に

慕っていたというか、そんな感じでした。

新村さんも父が真面目すぎる位ですので、別に毒にも薬にもなりませんので(笑)心を許しているんな事を話したようです。仲々他に話せない事でも父に話した事もあつたようです。可愛がって戴いた事があの人への唯一の励みになったのでしよう。ただ本当に母を大事にしました。さつき私は父を尊敬しますと言つたのは仕事もそうですが、家庭生活に於ても、あれだけは出来ない。幸せな人生だったのではないですか、頑固です、思う通りの事をやつた亡つたので、すから、あれ程幸せな事はないと思います。それからもう一つは小山支部長にも、又最後は沢山の人の来て貰つたことが父にとって一番の幸せだったと思います。

小山 伊坂さんの葬儀については新村理事長が気を使つておられましたね、それで連名で私は一支部長ですが、地元支部ということで一緒に出しなさいとのことで、主だった過去の役員経験者、現役員、それと東京と全国の主だった役員にも通知されるということで、ここに改めて新村さんのご配慮に、勿論伊坂社長もこの前お礼をされましたが、感謝しております。

伊坂 父が非常に恵まれていたというのは、小山さんが支部長をやつてらしたということも、関係のある時で親父自身も非常に幸せな人生だったと思つているのですが、最後まで運に恵まれていたといふべきですかね。

小山 私自身、光栄でした。お見送りができた、それでしかも密葬の時も私一人業界で参列

したものですから、ほんとに冥利に尽きたなあという感じがします。しかも伊坂社長に献盃の挨拶を頼まれて、突然でしかも身内の方々の伊坂顧問と関係の深かった人々だけだったので、よもやそんな立場になるとは思わなかったのですが、万感の思いで一杯でした。

伊坂 いや、うちの関と二人よかったなあと、来ていただいて迷惑だったけど、支部長に来ていただいたことが周りに対しても有難かったです。そして私は皆様に正月ですし、迷惑をかけるのがいやだったので、社員に緘口令をしていて、皆出掛けてますと、新村さんも行先が判らない等、そんなばかな話があるかと怒ってました。

齋藤 先代新村さんと伊坂さんはほんとに信頼し合って、新村内閣が出来た時は難かしい所でしたので、あの当時は印刷組合というのは文京支部、千代田と京橋、この三支部が主力でした。それで新村さんは気心の知れた伊坂さんを女房役に頼ったのです。

そして、井上さんが来てくれて大変よかったです。井上計さんは伊坂さんの葬儀には心の底からお礼をされたと思います。

伊坂 いや親父も井上さんにお世話になったのです。あの方がいらしたから親父も構改が出来たのだと思います。親父は家に帰って来て酒を飲む都度、素晴らしい人だなあとほめてたのです。

齋藤 そう、井上さんは人物ですね、私なんか初めは失礼ながらそれ程じゃないと思ったのですが、彼が本部に出た頃はそう思ったのですが、

その後鳥取のハイデル会で宮城さんといった時に井上計氏が来て、駅に県会議員が送ってききました。だからこれは一寸、我々が考えているより大物だわいという考えを持ちました。そんな訳で構改は塚田さんだけの頭だけじゃなく井上計氏の政治力が加わらねば駄目だと思いましたね。

伊坂 帰って来てよく言っていましたよ、自分じやうまく話せないけど、井上さんは上手に話してくれるから助かると、私と每晚飲んでますから大体の話は聞いているのです。井上計氏の朝会があります、父といつも行きましたが、新聞社の清水さんに朝会に一回も欠かさず来たのは伊坂さんとおれだけだと言っていました。その後女房の事があってどうしても行けずに一、二回欠席しました。だけどそういう意味では、中村榊さんにもお話ししなければいけなかったのですが随分お年ですから、来て戴くのが悪くて足がよくないので考えて遠慮しました。

井上計さんも忙しいのは判っていたのですが、一緒に副理事長をやって戴いた中で、とてもよく御存知と思ひ頼んだところ、これも好運にも井上さんの予定が珍しく空いていた日で、これが一日ずれても、いくら伊坂さんの頼みでもたつていられたなかつたよと言われました。

齋藤 伊坂さんの社葬のときに京橋の小山支部長に立って戴いて、あれだけ大勢の方がいらして本当によかったと思いました。

伊坂 ただ花環をどうするかという事で、私はどこからも戴かないと決めてましたので、印刷組合だけ出すと父は東京経大の評議委員もやつ

てましたし、他の所もという事になりますので、大変申し訳ないのですが、お断りしました。

小山 私も花環を頼まれて断るのに大変でした。私は以前、失礼なことを申し上げたと思つて居るのですが、何か趣味を持つてはとか、住宅も郊外の緑の多い所にお住みになりませんかと伊坂顧問と社長を前に申し上げたら、伊坂さんは家はあるのだが人に貸しているんだと、動くのが何かおつくだつたのです。

伊坂 父は今の所から絶対離れたがらなかつたのです。それですつとそこに居るのです。

私等若い者はやはり郊外がいいですが、後手後手でいってますから今では買えません。

小山 いやちゃんと千葉の海近くに用意されててね、お話ししたのは宮崎に行った時ですね。

伊坂 ええ、父と三人で泊った時ですね。

小山 私もたまには座敷にも行きなさいと、私自身が行かないのに、よく怒られなかつたです。齋藤 千葉といえますと東京よりですか。

伊坂 昔の千葉海岸といまして今の京成西登戸です。その駅前です。母が元気な時にたまに行つたのですが、それもうちで買いたくて求めたのでなく、ある人の紹介ですつと以前に話があつてそれでは買つておこうと買つたのですが、今では海は遙か彼方の見えないう所へ行つてしまつて。(笑)

齋藤 あの辺りもずい分変りましたからね。

小山 しかしもう緑の多い所はなくなりました。

伊坂 庭だけは立派なのです。母が好きなので金かけたのです。

小山 いや失礼な事をいしました。もう一つ私  
は余計な事を申し上げました。そろそろ社長を  
やめて会長になられてはと申したら、「うん考  
えているんだよ」と言われました。

伊坂 3年か4年前に社長をやれと言われた時  
があったのですが、父がまだびんびんしている  
のですからと首を振ったのです。私に譲られた  
日は丁度親父の父の留吉の命日でした。だから  
最初のときはまだ譲りたくないと思ったので  
断ったのです。

齋藤 支部に來られても短気だという感じは見  
せた事はありません。ただ一回だけ湯河原の清  
川で所でハプニングが起った事があります。

あの時は高橋さんが調整組合をおやめになり伊  
坂さんもおやめになって相談役になられた。高  
橋さんがうまくタッチしたように外から見えて  
も中はそうではなかったのです。そこで伊坂さ  
んは後任の理事長をたててやろうとしてあの日  
はすっかり席を設けて向井さんと話をしようと  
用意したわけです。

それで1人だけはいかんと2、3人呼んで  
私も後からこいと、きめてた所が、向井さんが  
全印健か何かの寮に呼出しがきたからとかで、  
他の人と向うへ行ってしまったので、さあ伊坂  
さん御機嫌が悪くなって、行ったものを呼び戻  
すわけにいかず、伊坂さんがお帰りになるとい  
うのでついて行くと玄関で下足番がぐずぐず  
言って応待が悪かったので、腹の中に納めてい  
たので他人に判らずに、ああなつたのです。

伊坂 それで下足番を撲ったのでしょ。うちの

社員でも2、3人親父に撲られたのがいます。  
その中の1人が親にさえ撲られた事はないのに  
と言ってましたが、今でも勤めています。手  
も早かったですね。

齋藤 でも清川の時はずっと昔でまだお若かつ  
たからですね。当り前です。31年頃の事です。

そんな事があって短気だという事になったの  
ですが、ただ下地にそういう事情があったし、  
お酒も入ってよけい機嫌が悪かったのでしょう。  
小山 いや最近それを聞きまして、大分イメー  
ジをこわされたような気がしてたのです。そう  
いう話をする人がしやくにさわる位でした。

(笑)

齋藤 伊坂さんが組合関係で何かあったのはそ  
れだけでした。選挙の時のあと伊坂さんにひ  
どい事をいう人もいましたが、私はこれはただ  
では済まないのではないかと思いましたが伊坂  
さんは何も言わなかったですね。

伊坂 そうですか。

齋藤 けどはつきり言って伊坂さんは涙出し  
ましたよ。伊坂さんは黙って聞いていましたが、  
ほんとに伊坂さん自身が一番気にしていたので  
す。どうしてあれを納めようとして一番苦労し  
たのは伊坂さんです。

伊坂 そうですか、いい所もあったのですね。

石沢 真面目だったのですね、それと間違つた  
事がきらいなのです。だからつい誤解を受ける  
事があるのです。弁解しないという事です。

だから僕にいわせると真面目すぎたのです。  
伊坂 融通がきかなかつたのですね。他の人な

らばつとこう言う所を、黙って思った事を通そ  
うする一徹さがありました。

石沢 いや会議に出た時はありませんでした。

齋藤 全然ないです。本部の会議でも、他支部

の人でもそう感じた人はだれもいません。伊坂  
さんはおとなしい人として評判で紳士ですよ。

石沢 先程その話を聞いて以外に思ったのです  
よ。

齋藤 それも、又おもしろくない所へ下足番が  
何かつつけんどんに変なことを言ったので、一  
遍に爆発したのでしよう。それ以外は何もな  
かつたです。

本部の理事長をやつた時もいつも取りなし  
役をやつて決してもめなかつたですよ。

伊坂 いや私はそれを一番心配してたのです。

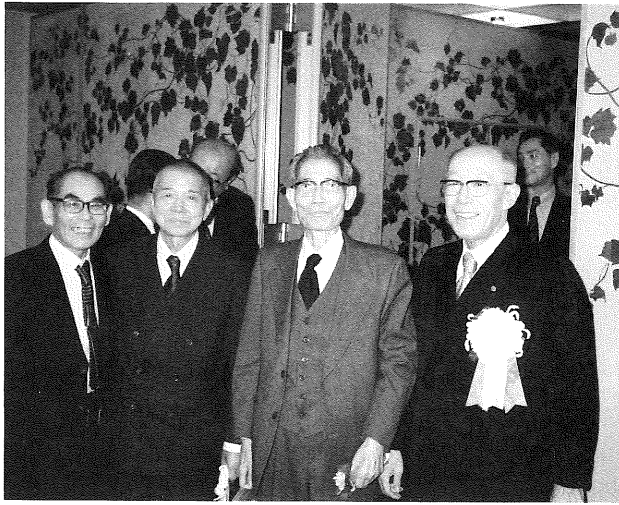
多分そんなことが沢山あるのだろうと、けれど  
誰も話して下さらないのではと思つてました。

小山 伊坂さんは印刷をこよなく愛し語学も出  
来て世界的な視野の広い人だという事で、本当  
に温厚な人とみていたので、それで下足番の話  
を聞いた時は、なんて噂をするのかと腹立たし  
い感じをしたのです。それで初めて気短かな人  
だという事を知つたのですが、先日葬儀の時に

社員の方が私の横に來て社長に撲られた者の一  
人は私ですが、その私がいふけれども父(社  
長)は立派でしたと言つておられました。

齋藤 新村さんのお父さんも強気だったのです  
よ、又あの方が少々強く言つても、あまり本氣  
に取れないんですよ、あれを他の人がやつたら  
おかしくなるのですが、不思議とあの人がやる





と何言っても簡単に済んじゃうけれども、やはり伊坂さんはいい女房役に徹しましたがおとなしい印象とともに短気な江戸っ子の面もみたかったです。

齋藤 新村さんの時はほんとに伊坂さんの人格ですよ、やっぱりこういうやり方でないとな新村内閣が成長していかないという事です。

伊坂 それを聞いて気持が全部すっきりしました。今迄は何かあるのではと思ってたのです。

齋藤 今の清川の件もお耳に入ってるだろうと思っていました。

伊坂 いや知らなかったのです。

石沢 挨拶にしてもないがしろにしないで、きちんとお話して下さいね。

齋藤 私なんか伊坂さんの影響を受けてから忍耐強くなったと家内からも言われました。以前はすぐ怒る方でしたが、組合に出るからは我慢強くなったと思います。

石沢 伊坂さんは業界では1番の人ではないですか、戦後40年間を通じてね。

齋藤 そう1番ですね。調整組合を通して、今の厚生基金の伊藤哲治さんのお父さんの伊藤集さんと同じですからね。

石沢 業界の大功労者ですよ。

小山 それにしても我々の報い方が足りない位ですね。一昨年の栃木文化典に出られたのが、公式の行事の最後だったですね。同じ年の春の齋藤さんの受賞祝賀会の乾杯をされましたが、あれが東京都の業界関係者の皆さんに対するお別れだったですね。

齋藤 もうほんとに有難い事です。この2、3ヶ月前まではまだその時はいろんな話をしましたが。京橋では高橋さんと伊坂さんが背負ってこられましたね。それにずっと以前に亡くなられましたが田嶋さん、田嶋さんも50年史をお作りになる時は元氣だったのですが出来る頃には大変おやせになりましたね。

伊坂 いい方でしたね。あの方こそ怒った事が無かったですよ、いつもニコニコしてましたね。

小山 そうですね。私は昭和40年位からしか知りませんが、相模原のゴルフに行った事がありますが、キャディさんが私が印刷屋だと言うと

印刷屋さんで田嶋さんという人がいますかと聞くので、それは久栄社の田嶋さんだろうというのと、二人のキャディがあの方はメンバーだったとが仏さんのような方でいつもニコニコして優しくして下さったと話してました。

石沢 ええ田嶋さんも昔からああいう方ですね。伊坂 田嶋さんも能登半島の出です七尾の近くです。金沢から行った方が近いと沢田さんに教えてもらいました。沢田さんも能登の人ですがあの人は七尾に島を持っているのです。和倉湾の近くで、大伴家持が歌を詠んだ所に、沢田さんが記念碑を建てて、黛敏郎さんと呼んで除幕式をやったそうです。その横に4里四方の島があり、沢田さんの持ち物です。電気も何も無い静かな所です。私も能登の出なので、昨年の能登プロセスの会で行った折に、久しぶりにしばらく過ごしてきました。

小山 能登プロセスの沢田社長も実直な方ですが伊坂さんと一番親しかった方ですね。

伊坂 沢田さんが初めて仕事を始めた時に一番に自転車に乗って来たのがうちののです。

小山 だから肝膽相照らす仲といえますかねえ。伊坂 私もうちに來る迄、こんな事は知りませんでした。私が能登半島から出て来るようになった時は沢田さんも知らなかったのですが、たまたまそんな縁がありました。あの人も父によく尽くしてくれたのです。

小山 一つ迄も話は尽きませんが、この辺で終りにさせて戴きます。皆様、本日は大変有難うございました。

## 組合員加入増強運動に思う

昨今の京橋支部組合員の数が漸減傾向にあることは、東印工組本部が各支部に要請している組合員増強運動が非組合員に理解されない証左ではないでしょうか。

京橋支部の組合員減少の最大原因は、ご存知の通り、地揚げ屋による地価高騰により廃業または他区への転出であります。京橋支部は東印工組支部の中で最大の支部であると同時にアウトサイダーの数も最多の地域ですから、組合の加入要請主旨の内容が非組合員業者に受け入れられるものであるならば相当数の増加は実現できると思います。

組合活動の目的が一企業若しくは一個人に対する利益の環元を求めること、即ちメリットを云々することは論外ですが、組合員増強運動のネックがそこにあることが実状です。

組合は今日までの活動の中でいろいろな成果を挙げてきました。構造改善指定業種としての優遇措置、書き損じはがきの交換、無折往復はがきの販売実現等に、然しこれらは組合員に限らず非組合員にも適応されたり、一般市民も利用できるもので組合員のみが受ける恩典にはなりません。組合は組合員だけが享受できる具体策を考慮すべきだと思います。

一案として、全印健保組合と折衝し、現在の全印健保の加入条項を改定して、一人でも加入

できるようにすべきです。全印健保に加入できれば、低廉な費用での保養施設の利用、低料金での人間ドック施療の受診等、非組合員を説得し組合加入を奨うことが容易と思います。

聞くところによると、全印健保の加入条件の原則は、(一)機械設備を有すること。(二)従業員5名以上であること。(三)月収平均が30万円以上であること。とされております。最も不思議に思うことは、印刷組合員であることの規定がないことです。また、加入条件の(二)、(三)にしても、加入組合員が永久に現状維持以上になるとは限

## 健保加入について

健保(全国印刷工業健康保険組合)の加入条件がきびしくて加入することができない……。といった不満の声を、東印工組の会合や、支部の集り等でよく耳にいたします。

今回、中山さんから、「京橋の印刷」に具体的な意見が寄せられたのを機に、私が健保組合を訪問し、加入条件や、健保の考えを聞いてまいりました。

健保の規約(定款と同じ)では、「印刷設備を有し、印刷物を受注生産する事業所」と明記されており、印刷ブローカーや製版等を業とす

りません。加入事業所の事情で従業員数や収入も減少することが考えられますが、その点について全印健保はどのようなチェックをしているのでしょうか? 若しも加入時に条件が整っていれば、後はお構いなしと云うことだと矛盾も甚だしいと思います。

印刷業は90%以上が中小零細企業者です。組合は視点をそこに合わせて活動することが望ましいと思います。印刷組合と健保組合は車の両輪ではないでしょうか。100名の事業所の組合員も一名の工場の組合員も同様です。印刷組合は健保組合と具体案を協議すべきです。1名でも健保組合加入が可能になれば、自然に組合員は増加するでしょう。(湊地区 中山)

る事業所は加入できないということです。

また、健保に加入する事業主と従業員の代表で構成する組合会(株主総会と同じ)の申合せによる加入条件として、

- ① 従業員五人以上であること。
- ② 標準報酬がそれぞれの地区平均以上であること。
- ③ 長期疾病(人工透析の患者等)がないこと。

④ 原則として印刷工業組合の会員であること。等を条件とし、これらの条件の一つでも欠けていけば加入はできないということです。

きびしすぎるといった業界の声は、健保組合でも充分承知しているが①③④の条件を満たさ

ない事業所の場合、保険収支に大きく影響することが統計上明らかであることから、財政的見地を踏まえ加入をご遠慮ねがっているということでした。

印刷健保組合は35年の歴史を有していますが、過去に何回となく財政上の困難から、組織崩壊の危機にみまわれました。こうした苦しい時期に、赤字支部の事業主は、保険料のほかに、従業員一人当り、数千円の分担金を出し合って組織の維持を図ってきた経緯があります。

こうした既組合員の努力と苦労を考慮して、新たに加える事業所には、平均的な負担をお願いするというにより②のような条件がきめられているということでした。

健保に加入すれば自動的に、厚生年金にも加入することとなり、従業員三人の事業所で、給料総額を仮に九十万円とすると、健保、厚生年金の保険料は、合計で月額十八万四千五百円となり、これを事業主と従業員で半分ずつ負担することになるということも、参考までに聞いてまいりました。

健保加入後、従業員や報酬が減少したときの資格云々のことですが、一度健保に加入すれば、事業廃止か倒産でない限り脱退はあり得ないという説明でした。

また加入条件を満たした事業所で、印刷工業組合未加入の事業所については、組合加入を呼びかけると同時に、組合事務局に連絡し、組織拡大にも協力しているとのことでした。

(文責 小山支部長)

### 顧問・相談役・参与の会、 幹事会併催



昨年11月26日(木)、顧問・相談役・参与の会、幹事会、を銀座キャピタルホテル2階にて開催しました。顧問・相談役・参与の会からは、15名、地区長・幹事は40名、部長・監査が9名と合計64名も出席して行われました。

小山支部長が支部事業について、構改調査票の提出、新規加入増強運動へのご協力をお願いした後、小宮山副理事長が小山支部長の病氣回復を祝って乾杯の音頭をあげて、一同乾杯してお互いの一年間の労をねぎらい、それぞれ地区毎に集って、来期の役員の予想等に話はずみ

ました。

当日は最高齢の瀬戸さんが、元気なお姿をみせておられたのを始め、日頃あまりお顔をみせないお方も出られて、小山支部長から特に瀬戸昇之助顧問の「中央区産業功労者」として中央区長より表彰されたことの報告があり、皆さん心ゆくまで楽しんでいました。

### 中央区優良工業事業主・

### 優良従業員表彰式



2月24日(水)、午前10時30分より、中央会館にて、中央区商工業各種表彰式が開催されました。当京橋支部からは、30年経営の工業事業主として、当支部相談役でもある、共立印刷(株)社長、片岡義郎氏と同じく相談役の東京真宏印刷(株)社長、久保田幸一郎氏の2名が受彰し、矢田区長から表彰されました。尚従業員受彰者は、10年以上勤続者が3名、30年以上勤続者は2名、それぞれ表彰されました。おめでとうございます。

## 東印工組「新春のつどい」

東印工組主催の初めての「新春のつどい」は1月13日、芝公園東京プリンスホテルで開かれ組合員、令夫人、青年会員、関連業者らが大笑950名も参集し、当初予定を300名以上も上回る人で会場は満員でした。京橋支部も組合員、青年会員が60名も参加して、お互い賀詞を交換して今年も頑張ろうと意気軒昂な所をみせていました。会は新しく制定された印刷産業人綱領を唱和して一致団結を誓うようでした。

尚当日の余興の抽選会では盛沢山の賞品が用意されましたが、最高賞のミンクコート(100万円相当)には京橋支部の松川印刷(株)、松川昭義氏が引き当てるという幸運に恵まれて、支部の皆さんから祝福されていました。支部ではもう一人上位賞に当たった方もおられて、「こいつあ、春から縁起がいいや」といったわけで東印工組第一の支部として上々の幕開けでした。

### 京青会

#### 「富士フィルム富士宮工場見学記」

2月13日(土)、9時40分、新富の印刷会館を出発して、富士フィルム(株)富士宮工場の感圧紙の製造工場の見学に向いました。京青会2月行事として新年会も兼ねて、石井・横山両幹事により企画されたもので、車中では富士宮フィルムの係員も添乗して、予め業容紹介のビデオを大



富士写真フィルム株式会社 富士宮工場見学記念 S63. 2. 13

型スクリーンに写し出すなどしながら車中で弁当を済ませて昼過ぎに予定より早く到着して、早速、説明会場に案内されて見学工程の説明とビデオを見た後、工場内を一時間に亘って見学しました。

見学者はホコリ防止のため、ユニホームを着て、運動靴にはきかえて見て回りました。全自動の機械によって巾広い紙に、自動的に薬剤を

吹き付けたり、途中で切れないように工夫したり、又紙の乾燥に独自の工夫をしたり、裁断も自動的に行われる等、日頃目にしない興味深い製造現場をみて皆さん、色々と質問をしたりしました。見学後も説明会場でも又、質疑応答が行われて活発な見学会となり2時半に予定を過ぎて、係員の見送りの中、工場を後にして、一路今夜の宿泊先の伊豆、吉奈温泉、さかやホテルに向いました。

車中では、皆さん見学終了までお預けとなっていたビールで喉を潤しながら、皆さんカラオケを楽しんでました。さかやホテルでは、岸会長挨拶のあと、乾杯をして、名物、大名料理の炉端焼のしし肉を心ゆく迄、賞味しながら、ひなびた山里での一夜を過ごしました。又翌日は途中でイチゴ狩りを楽しみ、予定より早く15時に印刷会館に無事帰着しました。22名参加。

(編集部)

## 地区だより

### 「新川地区新年会」

63年1月14日(水)、銀座「神田川」にて、恒例の新川地区新年会が開かれ、約25名の方が出席されました。まず三好印刷(株)、馬淵さんの司会で始められ、年末から新年にかけて相次いで、亡くなられた荒井美術の荒井政吉氏、伊坂美術印刷の伊坂一夫顧問の御冥福を祈って、黙禱を行った後、三好地区長が祝賀し、地区員の親和

をモットーにこの二年間努力して参りました。土地の地上げ等により、地区員の減少が続いておりますが、今後、頑張つていきたい、と挨拶した。続いて小山支部長が賀詞のあと、京橋支部行政について、構改調査表の提出、組織増強のため新加入組合員の勧誘にご協力戴きたいと述べた後、荒井、伊坂両先輩の訃報が相次ぎ、新年早々暗いニュースで開けましたが、反面明るいニュースもあります。(株)大竹印刷所、大竹社長のご令嬢が明日ご結婚式を挙げられるというお目出度いニュースもありますと紹介して皆さんの拍手を受けて、大竹副支部長がお礼を述べ、次いで乾杯の音頭をとって皆さん祝杯をあげました。新年早々の例会で皆さん同年代ごとにグループになって談笑の輪を拡げて8時過ぎ散会となりました。

### 新富地区新年会 2月20日(土)

於湯河原温泉 大滝ホテル

立春を過ぎて厳しさを増した寒さも今日は和らいで、八重州口、銀の鈴“に集まった仲間が12名、横浜乗車組2名を加えて総員14名の参加は新年会としては出席者数・率ともにこれまでの最高で、新年度へ向けて幸先きの良いスタートであると同大いに気を良くして新年旅行会の開幕となった。

13時22分、踊り子11号は湯河原に到着。駅前には美味しいそば屋で昼食をとり、バスに揺られて約20分で終点「不動滝」に到着する。まずは徒歩約3分の不動滝を見学する。石段

を上って行くくと右手に「出世不動尊」、大方の人がこれ以上は出世をする必要の無い人とあってこちらの参詣はおぎなりの様子。左手には「己我和利不動尊」、こちらは我が身に替って災難を引き受けて下さるお不動様ということで入念なお祈りをする。二つのお不動様の真中遠方にとうとうと水を落下させる不動滝、自然と人工の妙にしばしみとれる。

不動滝から歩いて約5分で本日のお宿「大滝ホテル」に着く。

いまテレビ番組などで流行りの露天風呂は殆どが地面に直接造られているのに、ここは大変珍らしく眺望露天風呂の名のとおりホテルの5階にあって、山の端に沈む日の光を正面に受けはるか眼下に見下す藤木川のせせらぎを聞きながらひたる岩造りの露天風呂は、また格別に旅情をなぐさめてくれる。

18時30分より新年会開始。大変残念なことに鈴木地区長が検査入院で欠席のため小林幹事の司会により、中村社長の乾盃の音頭で宴会が始まった。

湯河原は旅館100軒に芸者が200人とかで、若い綺麗どころが3人華やかに相つとめる割にはどうも氣勢が上らないのは部屋のせいのようなのだ。

80人位収容可能の大広間の真中にチンマリと14人では、賑やかなお喋りもただっ広い空間に消えてしまう感じで、何ともおさまりの悪い雰囲気ながら、飲みもの、食べものはタップリで、次期地区長新村さんの中、目出度くお開きとなった。

幹事部屋で二次会となり、一次会とは対照的に6畳の空間に12人を詰め込んで、おしくらまんじゅう“さながらの宴会となったが、流石に兎小屋の住いに慣れた民族か、落着きを取り戻して和気あいあいの懇親の宴に時の流れるのを忘れ、新しい年度への橋渡しに相応しい例会となった。(柴田記)

### 築地地区

互友会二月の例会は二十六日午後五時三十分より、うなぎの老舗「宮川」で開催した。出席者は二十名で西村印刷さんの退会が一抹の淋しさを感じさせた。会議は報告事項と次期地区長の推せんが議題であった。

報告事項は七日の中央区工団連の新年会、十三日の東印工組の新年会が東京プリンスホテルで開催され盛大であった。話題を呼んだのは抽せん会で、特等のミンクのコートと米二十七キロおよび魔法ピンが京橋支部員にあたり、京橋支部の今年は幸先良しともしばらの評判であった。

二十二日は中央会館で新年臨時総会が開かれ、次期役員のすいせんが決定したこと等が報告された。また互友会関係としては小森前地区長が虎の門病院に入院されたお見舞をしました。(一月二十七日)山中幹事の母堂死去により、同二十八日の通夜に布施元地区長、近藤地区長、春原、佐野両幹事が参列した。

主議題である次期地区長のすいせんは長老会議のすいせんでも決まらず、地区長より早期決

定の要請があった。なお後日、すのはら印刷専務の春原英夫氏が次期地区長にすいせん決定を見た。

なお京橋支部員の減少状況は六十一年27社が六十三年には25社となり二年間で22社が移転または廃業となったこと、および22支部のうち減少は京橋支部のみであることが報告された。

以上の報告事項と新地区長すいせんの協議事項を終えたあと、神田さんの乾盃の音頭で宴に移り午後七時過ぎ本年度および近藤地区長、山中、春原、佐野三幹事最後の例会は盛会裡に終了した。終了にあたり近藤地区長および三幹事から二年間無事終ったことは各委員のご協力の賜である旨のお礼の挨拶があった。四人共二年間あつという間に過ぎたことに対しほっと胸をなでおろしていた。長々とご協力ありがとうございました。(近藤記)

告 知 板

○「組合情報化促進企画調査事業報告書」A4版、138頁が東印工組にて纏められました。

各支部への配布数が少く全支部員へ配布できません。御希望の方は支部事務局552-1858へ連絡下さい。

支部の動き

11月5日 本部支部長会 於：印刷会館 大竹 副支部長出席

11月6日 税務研修会 於：都勤労福祉会館 印刷・製本京橋支部共催70名出席

11月7日 本部永年勤続従業員表彰式 於：新橋演武場 荒川副支部長出席

11月17日 本部新年会実行委員会 於：銀座 キヤピタルホテル 佐藤副支部長出席

11月25日 本部理事会 於：健保会館 小山支部長他出席

11月26日 幹事会、顧問・相談役・参与の会 於：銀座キヤピタルホテル 小山支部長他65名出席

12月3日 本部支部長会 於：新宿富士銀行ビル 小山支部長出席

12月8日 需要開発委員会 於：印刷会館、小山支部長出席

12月15日 本部新年会準備委員会 於：印刷会館、小山支部長出席

12月15日 新富・入船・湊地域整備説明会 於：中央会館、小山支部長他出席

12月29日 支部事務局仕事納め

昭和63年

1月5日 支部事務局仕事初め

1月6日 伊坂美術印刷(株)会長、支部顧問故伊坂一夫殿密葬 於：立川筑波斎場、小山支部長参列

1月7日 中央区工団連新年会 於：中央会館、小山支部長他出席

1月8日 印刷産業連合会新年互礼会 於：ホテルオークラ、小山支部長他60名出席

1月11日 需要開発委員会 於：印刷会館、小山支部長出席

1月13日 本部支部長会 於：東京プリンスホテル、小山支部長出席

1月13日 東印工組新年会 於：東京プリンスホテル、京橋支部から60名出席

1月19日 (株)荒井美術会長、支部参与故荒井政吉氏葬儀 於：光林寺、小山支部長他出席

1月21日 東製本工組京橋支部新年会 於：三笠会館、小山支部長出席

1月22日 本部総務委員会 於：印刷会館、小山支部長出席、本文参照

1月22日 部長・監査・地区長会 於：支部室

1、報告事項

昭和63年新年会について、名称「東印工組新春のつどい」参加数916名、アトラクション、抽せん会、チャリティー寄贈、(財)読売光と愛の事業団

2、本部事業推進について協議事項

。構造改善計画の承認について

。12月24日、近代化計画官報公示

。12月25日、構造改善計画承認、政府系金融機関の手続き、計画企業に連絡

。昭和62年度実施状況報告及び昭和63年度計画の調査提出状況、1,023社(1/11現在)

。役員改選について

。事務用、商業用「版下の新しい作り方」研修会、2/27

。印刷営業士指導講習について、2/24、後楽園会館、講師高畑伝氏

。第4四半期の日程について  
3、当面する支部行事について  
。通常総会運営について

1月22日 京橋支部新年臨時総会 於：中央会館、約150名出席、本文参照

1月25日 中央厚生事業協組新年会 於：阿波屋、小山支部長出席

1月26日 伊坂美術印刷(株)会長、支部顧問故伊坂一夫殿葬儀 於：築地本願寺、業界人多数参列

1月28日 本部役員推薦会議 於：印刷健保会館、小山支部長出席

1月28日 本部理事会 於：印刷健保会館、小山支部長出席

1月29日 第1回支部役員推薦委員会 於：京橋支部、石沢委員長他委員出席

2月4日 本部支部長会 於：印刷会館、小山支部長出席

2月5日 第2回支部役員推薦委員会 石沢委員長他委員出席

2月9日 第3回支部役員推薦委員会 石沢委員長他委員出席

2月13日 14日 京青会宿泊研修会 於：富士フィルム(株)富士工場、伊豆・吉奈温泉ホテルさかや宿泊、22名出席

2月15日 需要開発委員会 於：印刷会館、小山支部長出席

2月16日 本部総務委員会 於：印刷会館、小山支部長出席

2月18日 部長・監査・地区長会 於：支部室

1. 支部長会報告事項

。支部文化・教養活動補助金支給状況、15支部へ各2万円

。各支部勉強会(小企業に関するもの)に対する助成金交付状況、10支部へ各1万円支給(京橋支部は税務研究会)

2. 本部事業推進について協議事項

。役員改選について、理事の定数、本部理事の推薦、2月26日迄

。構造改善調査について、2月10日回収切、現状について

。諸調査の実施について  
印刷需要動向調査、2月15日切、580社へ直送

標準照明普及状況に関する調査、200社へ直送、2月15日切

。生活安定セミナー開催について、2月26日、18時、飯田橋セントラルプラザ

。有機溶剤作業主任者技能講習会、2月18日、16時、飯田橋セントラルプラザ

。第3次火災共済加入増強、重点支部(板橋・練馬支部)

3. 支部提案事項

。生命共済制度に病氣入院給付の特約事項を加えることについて

4. 当面する支部事業について

。通常総会、4月22日(金)場所：中央会館、18時  
。本部理事推薦について8名、2月26日迄。

田島一弥氏が副理事長、小葉常務理事新任、次期支部長として大竹次郎氏が、それぞれ候補として内定

。総会資料の作成を3月中に行う。

2月19日 全印健保組合 於：健保会館、小山支部長出席

2月22日 第4回支部役員推薦委員会 於：支部室、石沢委員長他委員出席

2月24日 中央区優良事業主・従業員表彰式 於：中央会館、小山支部長他出席、30年経営事業主として片岡義郎氏、久保田幸一郎氏の2名が表彰される

3月3日 本部役員推薦会議 於：印刷会館、小山支部長出席

3月3日 支部長会 於：印刷会館、小山支部長出席

1. 報告事項

。印刷需要動向調査について

標準照明普及状況に関する調査について  
。有機溶剤作業主任者技能講習会結果について、2/18、19、75名受講、73名合格

。生活安定セミナー開催結果について、2/26、112名受講

。技能審査認定制度の準備状況について、2/10、労働省へ申請

。「加工高と利益感度を高める計数管理」冊子の作成について

B5判、60頁、3月下旬 全組合員へ配布予定

2、本部事業推進について協議事項

。役員改選について、理事者名、監事者名、3/10理事会へ上提  
各種調査について

。特殊健診に関する実態調査の実施について、全組合員対象、3月上旬直送

。年賀状実態調査の実施について、対象3月上旬、全組合員対象、3月上旬直送

。新加入組合員懇談会の開催について、3月22日、18時、京橋会館

。東京海上火災保険(株)主催「経営者セミナー」開催について、後援 本部厚生委員会、対象、工組「印刷機械共済制度」既加入者、本部三役、支部長、厚生委員「土地所有者、オーナー経営者のための相続税対策」

。紙価格問題について

3月4日 東商中央支部小規模企業振興委員会 於：中央会館、小山支部長出席

3月8日 「京橋の印刷」座談会 於：支部室、小山支部長他出席

3月9日 中央区工団連理事會 於：中央区役所、小山支部長他出席

3月10日 本部理事会 於：印刷健保会館、小山支部長出席

3月16日 臨時部長会 於：支部室、支部役員出席

3月18日 本部総務委員会 於：東京プリンスホテル、小山支部長出席

3月23日 東商中央支部全員懇談会、於：鉄鋼会館、小山支部長出席

3月24日 印刷営業交流ガイド編集委員会、於

：印刷会館、小山支部長出席

3月25日 部長・監査・地区長会 於：大野屋  
通常総会資料、申し送り事項の検討

### 支部員の異動

脱退組合員(63年1月〜3月)

- ・(有)中安印刷所(入船地区)、中安義郎殿
- ・東興美術印刷(湊地区)、伊東子篤殿
- ・(有)すずか印刷所(築地地区)、鈴木孝殿
- ・(資)生美堂飯塚印刷所(新富地区)飯塚達夫殿
- ・(有)昭文堂(入船地区)、永倉豊殿

### お悔み申し上げます

▼新川地区、(株)荒井美術会長荒井政吉殿が御逝去されました。(12月)

▼新川地区、伊坂美術印刷(株)会長伊坂一夫殿が御逝去されました。(1月)

▼湊地区、(有)青柳印刷所社長青柳繁太郎殿が御逝去されました。(1月)

▼京橋地区、荒木印刷(株)・エーピーデー(株)社長荒木城介殿が御逝去されました。(2月)

### 所在地移転

・松栄印刷(株)は品川区大井2-25-1へ移転しました。電話は298-3711です。

・(株)一九堂印刷所は新本社建築のため、一時、八重州2-11-3、電話273-2695となります。

・荒木印刷(株)社屋建築のため、一時、京都1-9-5、カクトビル、電話不変となります。

## 編集後記

▼印刷人として文字または書に関心のある方も多いと思われまますので七十号の表紙は謝赫の六法を採用しました。松原画伯は画人と平行して書を愛し、漢詩を好んでいました。謝赫はご存知の方も多いと思われまますが、中国南北朝時代、南朝の齊(南齊C500)の人です。画家として画詮家。特に人物を画くのに勝れたが、人物、物、景、一見すれば、帰宅して之を画くのの一つの遺失も無かったとされています。著に「古画品録」があるがこの著に画作の基礎を述べた「六法」は有名である。曰く、氣韻生物骨法用筆は心がまず自然の生氣を体すること。応物象形 随類賦彩 経営位置は寫美に徹すること。傳移模寫は教養演習と六つの各論です。

▼「伊坂顧問を偲んで」は非常に貴重な座談会として全支部員に読んで戴きたいと思ひます。伊坂さんを知らない若い人々にとっては大変勉強になると思ひます。支部の大先輩にこんな立派な人がいたことを誇りにすべきでしょう。下町育ちのいきな江戸っ子として、いつも本音で仕事をする姿は「福澤諭吉」の心訓の一節を彷彿させて呉れます。そして伊坂さんの哲学を感じます。その意味ではこの七〇号は小山支部長の退任の餞として意義あるものといえます。また同時に大竹新内閣誕生の祝辞となりました。▼編集子の任期はこの号で終りました。長い間いろいろ有難ございました。(近藤記)